

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	インテリア基礎	担当教員	清水隆宏、青木哲			
学年学科	2年 建築学科	後期	必修	1 単位		
学習・教育目標	(D-2) 100%					
授業の目標と期待される効果： 一般に建築の内部、室内空間のことをインテリアと呼ぶ。つまり、建築の内部で生活する我々は、常にインテリアに接していることになる。この授業では、身近なインテリアを通して、3次元空間を表現することを学ぶ。具体的には、簡素な模型による3次元空間の表現を習得する。同時に3次元空間やインテリアをデザインし、自らの作品のプレゼンテーションを行う。		成績評価の方法： 大きく分類して5つの課題（各100点満点）合計500点の得点率（%）により成績評価を行う。 また課題提出は時間厳守とし、期限に遅れた場合は減点とする。授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の1～10%を減じた値で評価する。 具体的には、出席簿に記載した注意の回数と減点（%）を対応させる。				
学習・教育目標 (1) 模型、3次元図法を用いて、インテリアに関する3次元空間などを表現する (2) 空間を豊かにするインテリアを創造的に組み立てる (3) プレゼンテーション能力を養う		達成度評価の基準： 下記(1)～(3)について、6割以上達成しているかを評価の基準とする。これらの成績評価の重みは、(1)：(2)：(3)=4：3：3である。 (1) 学習した表現技術について理解し、活用できる (2) テーマに対応した創造的なデザインができる (3) 創意工夫を持って丁寧に作業し、美しく分かりやすい作品を作成することができる				
授業の進め方とアドバイス： 3次元の表現技術を習得するためのトレーニングとして、常に建築・空間・家具等を意識して体験・観察することが重要である。 また、積極的に建築・デザインの雑誌などに目を通して、感性を養うと同時に、表現技術を参考とすること。						
教科書および参考書： 教科書：インテリアの基礎がわかる本（エクスナレッジ） 参考書：各種建築雑誌（新建築・建築文化・GA など）						
授業の概要と予定： （前半：清水隆宏 後半：青木哲）						ALのレベル
第 1 回：課題と趣旨の説明、造形の基礎						C
第 2 回：道具の使い方、平面から立体へ						C
第 3 回：ファニチャーデザイン1						C
第 4 回：ファニチャーデザイン2						C
第 5 回：ダンボールモデリング1						C
第 6 回：ダンボールモデリング2						C
第 7 回：建築模型の基礎						C
第 8 回：後期中間のまとめ（作品の講評を持ってフォローアップとする）						C
第 9 回：色彩・カラーコーディネートに関する基礎知識						C
第10回：カラーコーディネート課題1						C
第11回：カラーコーディネート課題2						C
第12回：プレゼンテーションボードの作り方						B
第13回：プレゼンテーションボードの制作1						C
第14回：プレゼンテーションボードの制作2						C
第15回：プレゼンテーションボードの制作3						C
第16回：フォローアップ（作品の返却と講評会）						

評価 (ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	学習した表現技術について理解し、活用できる (8割以上)。	学習した表現技術について理解し、ほぼ (6割以上) 活用できる。	学習した表現技術について理解し、活用することができない。
②	テーマに対応した創造的なデザインができる (8割以上)。	テーマに対応した創造的なデザインを、ほぼ (6割以上) 作成できる。	テーマに対応した創造的なデザインができない。
③	創意工夫を持って丁寧に作業し、美しく分かりやすい作品を作成することができる (8割以上)。	創意工夫を持って丁寧に作業し、美しく分かりやすい作品をほぼ (6割以上) 作成することができる。	創意工夫を持って丁寧に作業し、美しく分かりやすい作品を作成することができない。